

Express5800/MailWebServer (N8500-727) パッチ適用手順書

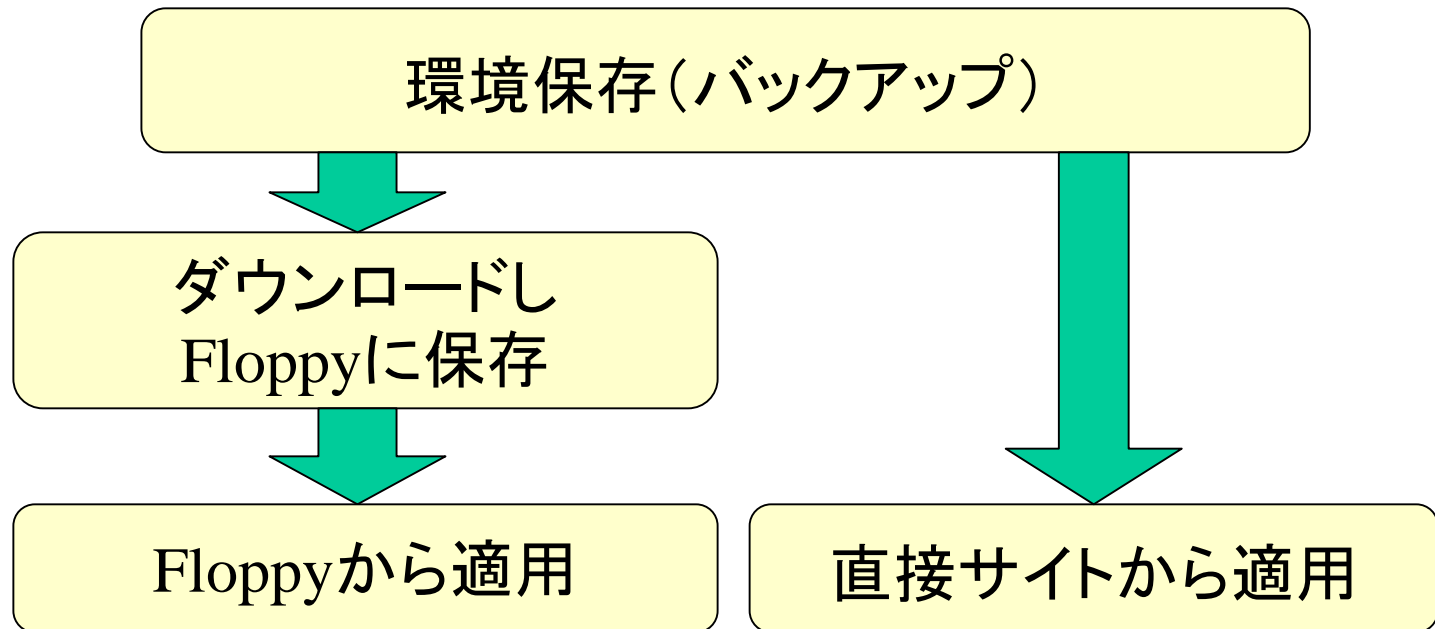
本書は、Express5800/MailWebServer(N8500-727)の運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。

(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご覧ください)

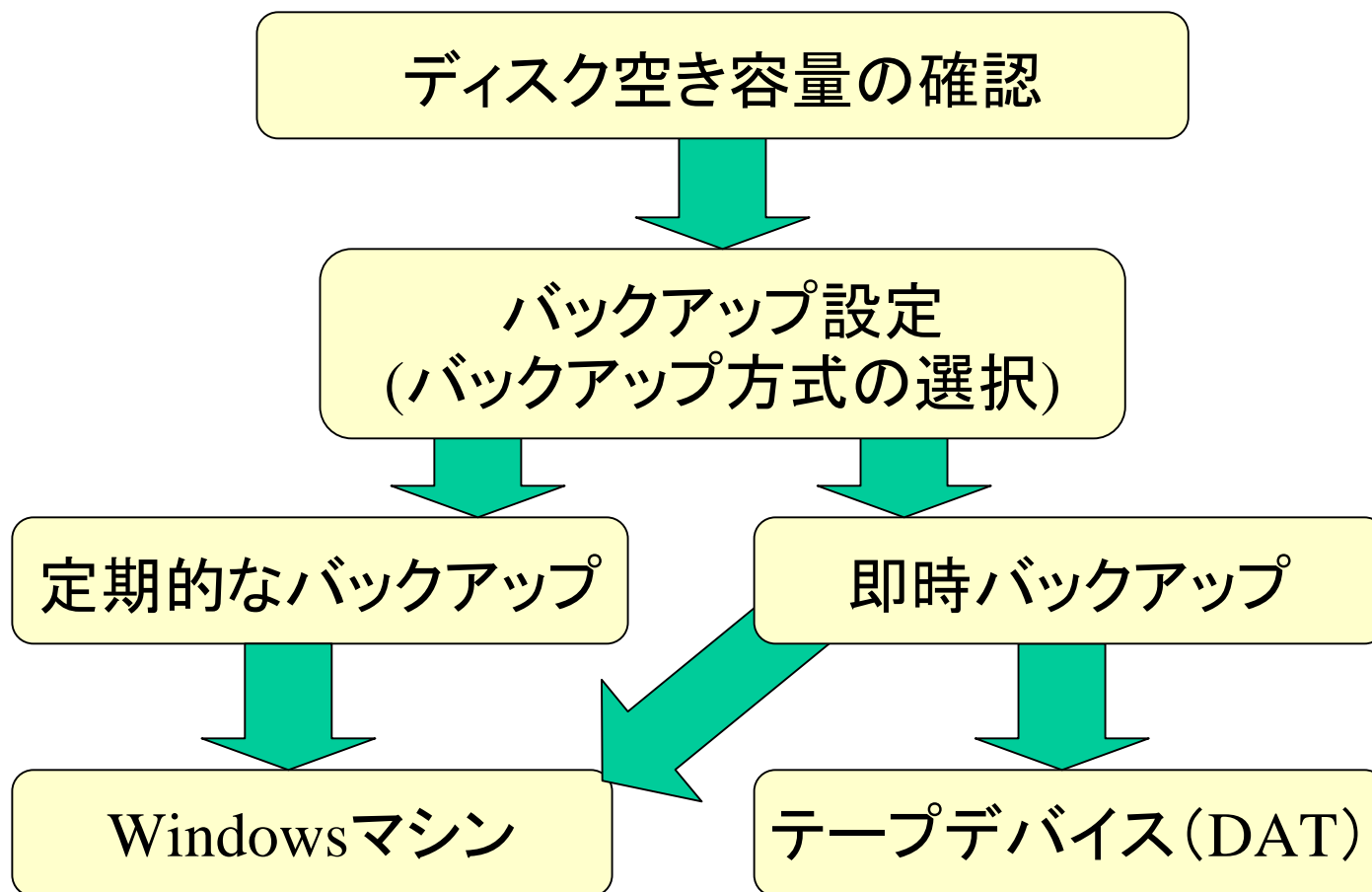
2001/08/16 第2版

NEC

パッチ適用の基本手順



バックアップ手順

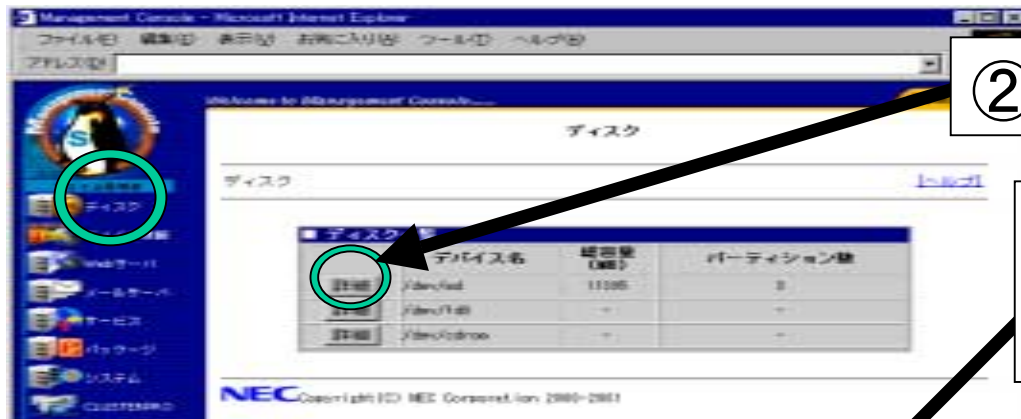


空き容量確認手順

Management Consoleで以下の順にクリックし、使用中のディスク容量を確認してください。その容量以上の空きディスク容量が、サーバとバックアップ先に存在すれば、バックアップ可能です。

※画面項目の説明と、実際の数値は異なることがあります。

①
ディスク



② /dev/md の「詳細」ボタン

③ この数値の合計
||
使用中のディスク容量



	状態	パーティション	マウントポイント	容量 (MB)	使用中 (MB)	使用中 (%)	
詳細	使用中	/dev/md1	/	1,021	521	1,401	27%
詳細	使用中	/dev/md1	/var	2,070	1,000	2,064	0%
詳細	使用中	/dev/md2	/home	8,025	100	8,001	0%

Bar chart data:
/ (1021 MB): 521 MB used (51%), 1401 MB free (49%)
/var (2070 MB): 1000 MB used (48%), 2064 MB free (99%)
/home (8025 MB): 100 MB used (1%), 8001 MB free (99%)

④ この数値の合計
||
空きディスク容量

⑤ バックアップ先の
空き容量の確認

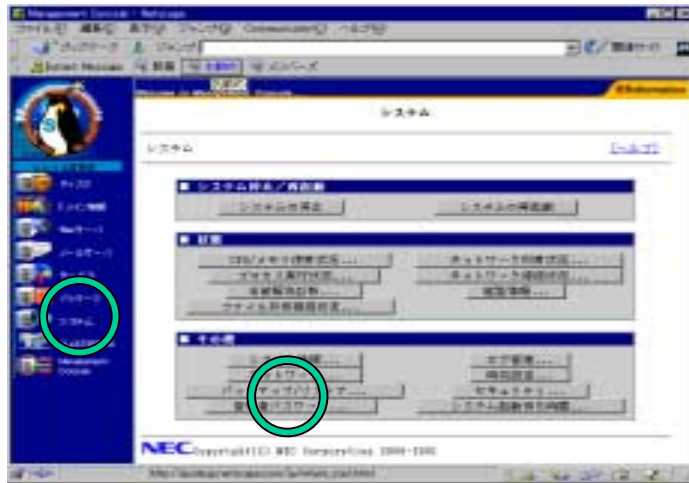
バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(1/3)

1. Windows マシンの共有フォルダの作成

例: ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2. Management Consoleによる設定(1/3)

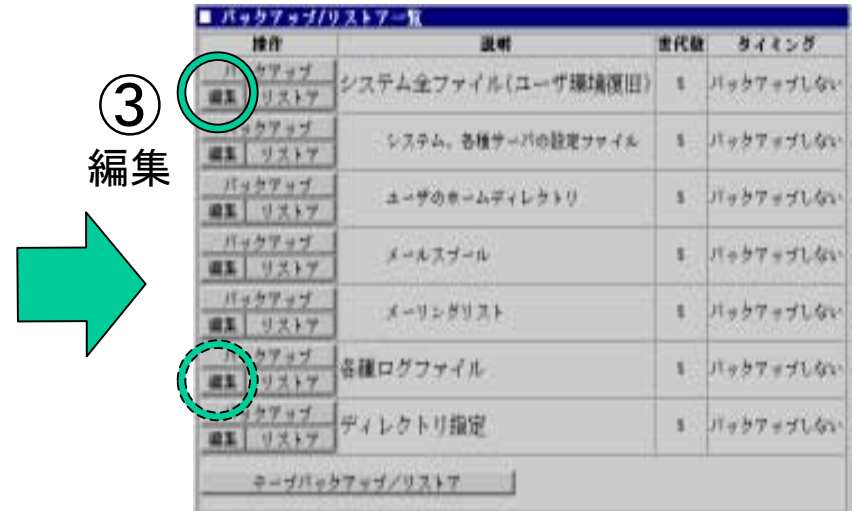
Management Consoleで以下の順にクリックしてください。



① システム

②

バックアップ/リストア



③

編集

バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(2/3)

2. Management Consoleによる設定(2/3)

以下の内容を入力してください。

■世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00にバックアップをとる。バックアップファイルは3世代分残す。

■Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例: マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「*****」

注意: Sambaのワークグループ名(サービス>Samba>基本設定)を解決しておいてください。

The screenshot shows a configuration window titled '編集' (Edit) for a backup system. The settings are as follows:

- 説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
- 世代: 3
- スケジュール: 毎日, 毎週 月曜日, 毎月 日, バックアップしない
- 時刻: 8 時 0 分にバックアップ
- バックアップ方式:
 - ローカルディスク ディレクトリ: /var/backup
 - Samba Windowsマシン名: winpc, 共有名: share, ユーザ名: user, パスワード: *****

At the bottom, there are two buttons: '設定' (Settings) and '即実行' (Execute Immediately). The '設定' button is circled in green, and a blue oval with an arrow points to it from the text below.

最後に「設定」ボタンをクリック

バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(3/3)

2. Management Consoleによる設定(3/3)

ロードバランスクラスタ形態では、下記の「ディレクトリ指定」が必要になります(Management Consoleのバージョンが3.2-1以前の場合に必要です。パッケージ一覧にてwbmcapの欄を確認してください)。

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ	システム全ファイル(ユーザー環境を除く)	1	バックアップしない
編集	リストア		
バックアップ	システム、各種サービスの設定ファイル	1	バックアップしない
編集	リストア		
バックアップ	ユーザのホームディレクトリ	1	バックアップしない
編集	リストア		
バックアップ	各種ログファイル	1	バックアップしない
編集	リストア		
バックアップ	ディレクトリ指定	1	バックアップしない
編集	リストア		

編集

■バックアップ対象ディレクトリに以下を入力する

/opt/nec/wbmc/ssh_host_key.pub

世代・スケジュール

前項と同様に設定する

Windowsマシン設定

最後に「設定」ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

世代・スケジュールを
設定しない

編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 3

スケジュール: 毎日
 毎週 月曜日
 毎月 日
 バックアップしない

時刻: 0 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

ローカルディスク ディレクトリ: /var/backup

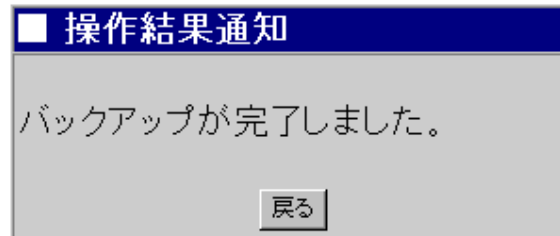
Samba Windowsマシン名: winpc
共有名: share
ユーザ名: user
パスワード: 33333333

設定 即実行

最後に「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

同様にロードバランスクラスタ形態では「ディレクトリ指定」を選択してバックアップを行ってください(Management Consoleのバージョンが 3.2-1 以前の場合必要です。パッケージ一覧にてwbmcapの欄を確認してください)。※「ディレクトリ指定」で入力する内容は定期バックアップ方法と同じです。

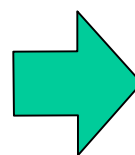
バックアップ例3:テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(1/3)

テープデバイス(DAT)が正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



①
システム

②
バックアップ/リストア



操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ/リストア			

③
テープバックアップ/リストア

バックアップ例3:テープデバイス(DAT)への即時バックアップ(2/3)

バックアップを実行します。

The screenshot shows a configuration window for a backup operation. It is divided into three main sections: 'テープデバイス' (Tape Device), 'バックアップ' (Backup), and 'リストア' (Restore). The 'テープデバイス' section has a field for 'デバイス名' (Device Name) containing '/dev/nst0'. The 'バックアップ' section has a 'バックアップ対象' (Backup Target) list with several options, the first of which is checked. The 'リストア' section has radio buttons for '元のディレクトリにリストアする' (Restore to original directory) and '別のディレクトリにリストアする' (Restore to another directory), with a text field for 'ディレクトリ名' (Directory Name) containing '/tmp'. At the bottom right of the 'バックアップ' section is an '実行' (Execute) button, which is circled in green. A large arrow points from a light blue oval at the bottom containing the text '「実行」ボタンをクリック' (Click the 'Execute' button) to this button. Other annotations include: a box 'テープデバイス名を指定する' (Specify tape device name) pointing to the device name field; a box 'ここをチェックする' (Check here) pointing to the first checked option; a dashed box '必要であればチェックする' (Check if necessary) pointing to the '各種ログファイル' (Various log files) option; and another dashed box 'ロードバランスクラスタ形態でManagement Consoleのバージョンが3.2-1以前の場合チェックする' (Check if in load balancer cluster form and Management Console version is 3.2-1 or earlier) pointing to the 'ディレクトリ指定' (Specify directory) option.

テープデバイス名を指定する

ここをチェックする

必要であればチェックする

ロードバランスクラスタ形態でManagement Consoleのバージョンが3.2-1以前の場合チェックする

「実行」ボタンをクリック

テープデバイス
デバイス名
/dev/nst0

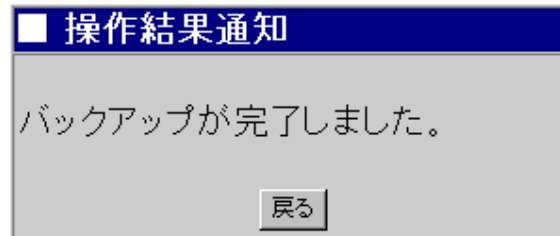
バックアップ
バックアップ対象
 システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
 システム、各種サーバの設定ファイル
 ユーザのホームディレクトリ
 メールスプール
 メーリングリスト
 各種ログファイル
 ディレクトリ指定

実行

リストア
バックアップのリストア先
 元のディレクトリにリストアする
 別のディレクトリにリストアする
ディレクトリ名: /tmp
内容表示 実行

バックアップ例3: テープデバイス (DAT) への即時バックアップ (3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



バックアップの補足事項(1/2)

1. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていないので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。
2. 「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」のバックアップは、
 - ・システム、各種サーバの設定ファイル
 - ・ユーザのホームディレクトリ
 - ・メールスプール
 - ・メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。

両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。

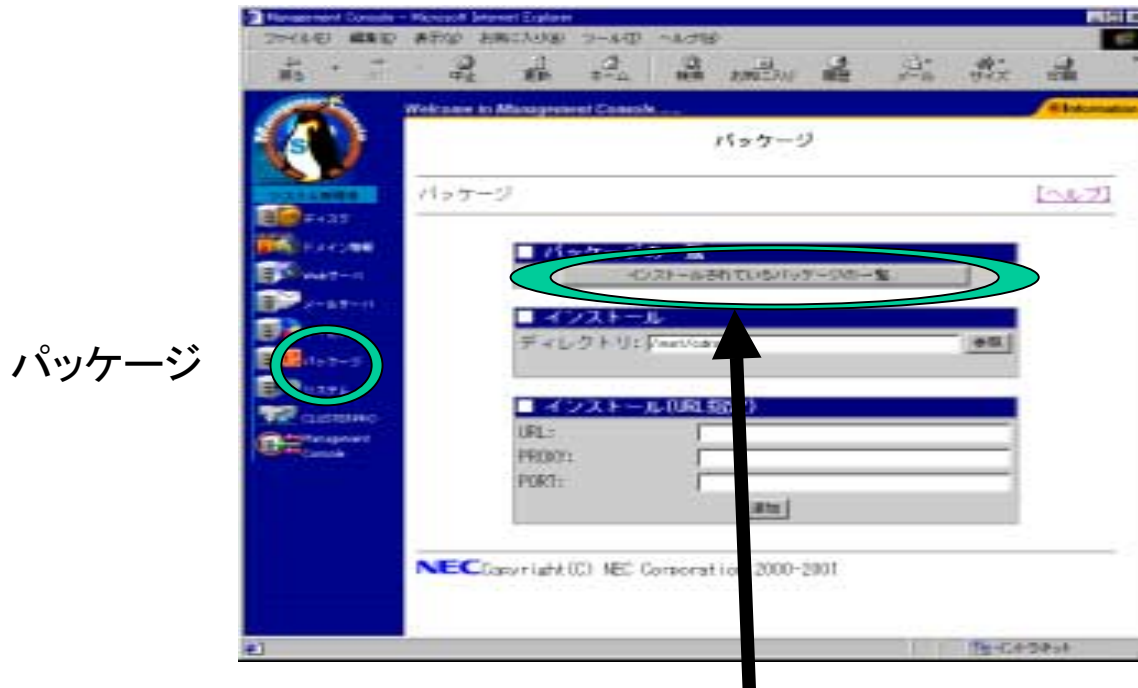
ただし、ロードバランスクラスタ形態の場合、メールスプールとメーリングリストは含まれません。

バックアップの補足事項(2/2)

3. ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。したがってESMPRO関連の設定については、OS再インストール後、ユーザーズガイドにしたがいあらためて行ってください。
4. ロードバランスクラスタ形態では「ディレクトリ指定」を選択してバックアップする必要があります(Management Consoleのバージョンが3.2-1以前の場合必要です。パッケージ一覧にてwbmcapの欄を確認してください)。

パッケージ適用状態確認

適用可否を判断するため、サーバ内のパッケージ適用状態を確認します。Management Console でパッケージをクリックし、[パッケージの一覧]の[インストールされているパッケージの一覧...]ボタンをクリックして下さい。これでサーバ内のパッケージ一覧が表示されます。



パッケージ

[インストールされているパッケージの一覧...]ボタンをクリック

適用方法1: Floppyから適用(1/4)

ダウンロードしFloppyに保存

パッチを別途ブラウザ等でダウンロードして、Floppyディスクに保存して下さい。

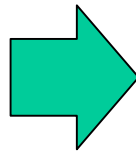
Floppyのマウント

パッチを入れたFloppyディスクをマシンに挿入後、Floppyをマウントして下さい。



①「ディスク」を選択する。

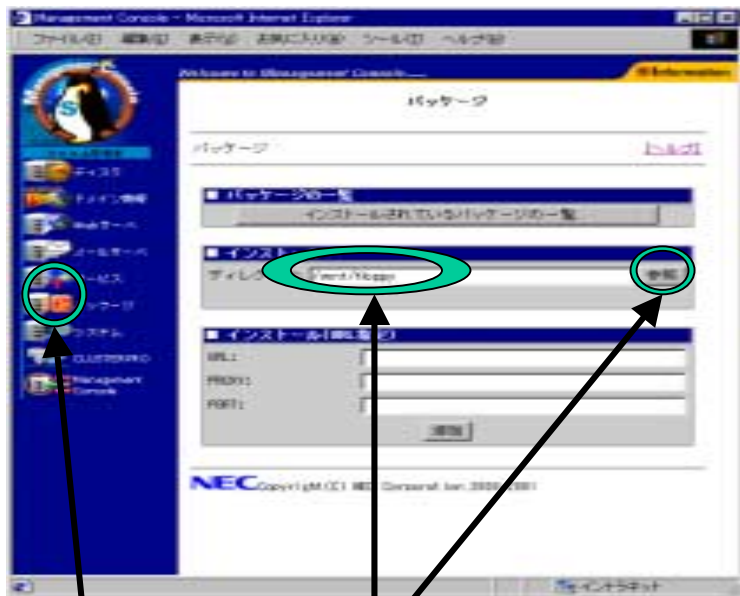
② /dev/fd0の「詳細」ボタンをクリックしてディスク詳細を表示する。



③「接続」ボタンをクリックしてFloppyをマウントする。

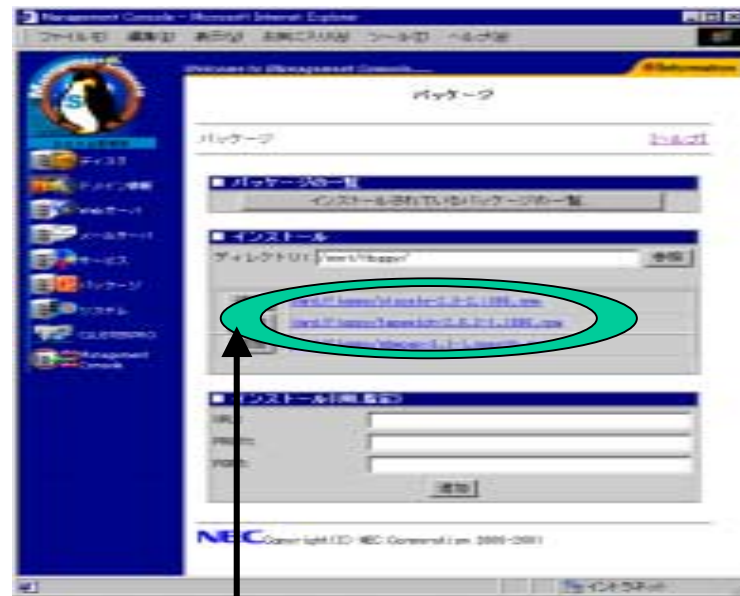
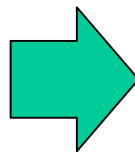
適用方法1: Floppyから適用(2/4)

Floppy上のパッチの指定



①「パッケージ」を選択する。

②ディレクトリに“/mnt/floppy”を指定して「参照」ボタンをクリックする。



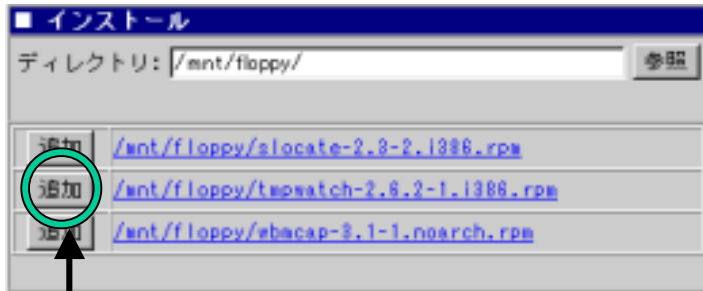
③Floppy中のパッチやディレクトリの一覧が表示される。

備考: ①で適用するパッチファイルパスも含めて指定するとそのパッチファイルのみが表示されます。

適用方法1: Floppyから適用(3/4)

パッチの適用

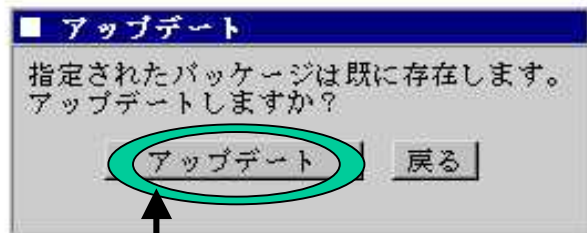
パッチの適用を行います。



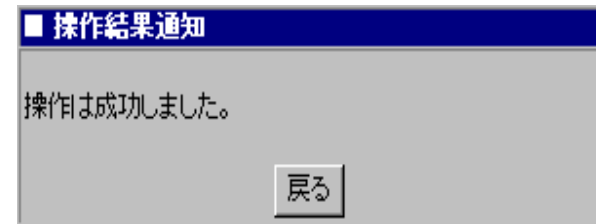
①[追加]ボタンをクリック



②[OK]ボタンをクリック



③[アップデート]ボタンをクリック



備考:②で古いバージョンが存在するとアップデートの確認メッセージが表示されます。適用する場合「アップデート」を選択して下さい。

適用方法1: Floppyから適用(4/4)

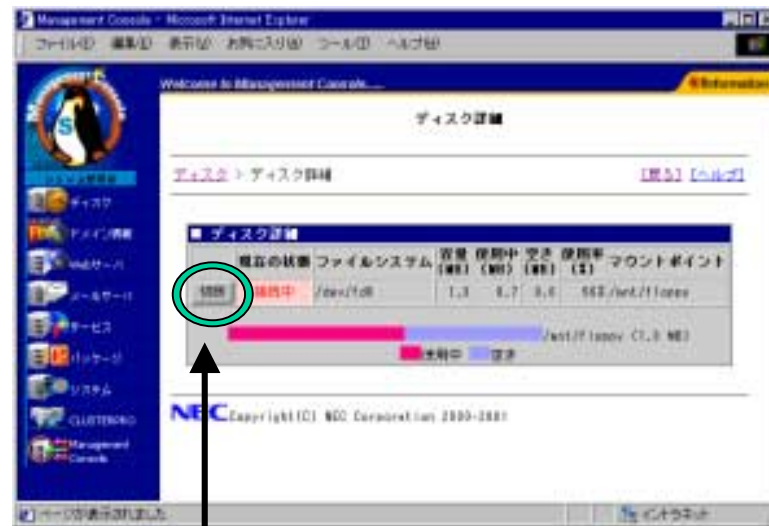
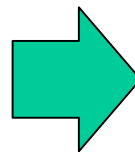
Floppyのアンマウント

Floppyディスクはアンマウントした後に取り出して下さい。



①「ディスク」を選択する。

② /dev/fd0の「詳細」ボタンをクリックしてディスク詳細を表示する。

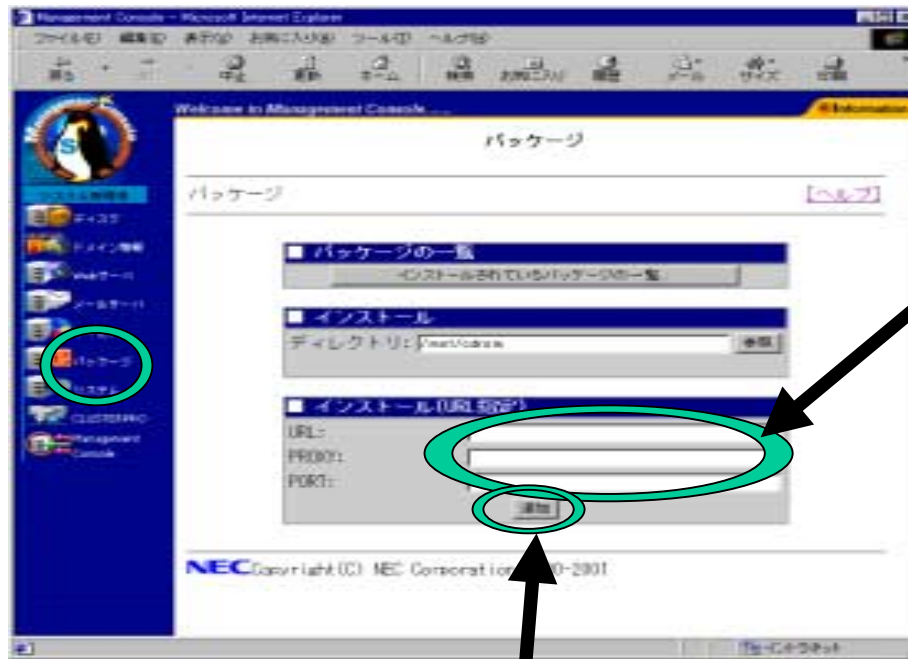


③「切断」ボタンをクリックしてFloppyをアンマウントする。

適用方法2: 直接サイトから適用(1/2)

あらかじめ適用するパッケージのファイル名をサイトで調べておきます。
次に、Management Console でパッケージをクリックし、[インストール(URL指定)]に適用したいパッケージのファイル名を指定して、[追加]ボタンをクリックして下さい。

パッケージ



■ インストール(URL指定)
適用するパッケージのファイル名をサイトごと指定する。

指定例)

<http://www.dom.com/perl-5.00503-3>

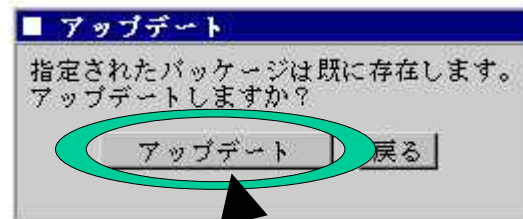
[追加]ボタンをクリック

適用方法2: 直接サイトから適用(2/2)

次のメッセージが表示されます(古いバージョンが存在すると表示されるメッセージです)。**[アップデート]**ボタンを選んで下さい。

※なおパッケージが存在しなかった場合は、前頁の**[追加]**ボタンを押すと、即座にパッケージのインストールが開始されます。

※すでに同じパッケージが存在する場合は、エラーメッセージが表示されます。



[アップデート]ボタンをクリック

パッチの適用が正しく行なわれた場合は以下の操作結果が通知されます。

